

## 進路指導室から 第264号

### はじめに

先日、ある二人の生徒から贈り物（差し入れ）をいただきました。一人は、創造表現コースの3年生の生徒で授業を担当していた生徒です。今年度、創造表現コース3年生の授業を担当しましたが、「お世話になりました」とのことで、創造表現コースの生徒が製作したノートをいただきました。もう一人は、私が参与を務めている競技かるた部の生徒です。渡されたのは、お菓子と栄養ドリンクでした。この組み合わせは、何か深い意味がありそうです。とりあえずは頑張ろうと思っています。

### 「就職率」と「進路決定率」について

「旺文社 進学情報 今月の視点（1月）」に「就職率」と「進路決定率」についての記事が掲載されていました。

志望校を検討する際に注目される指標の一つに「就職率」があります。卒業後の進路を知るための指標ですが、「就職率」の捉え方には注意が必要です。

例えば、ある大学の学部の「卒業者」「就職希望者」「就職者」「進学者」のそれぞれの人数を以下のとおりとします。

〔ある大学の「卒業者」「就職希望者」「就職者」「進学者」〕

卒業者	就職希望者	就職者	進学者
434名	343名	312名	30名

文部科学省が定義している「就職率」の算出のしかたは、分母を「就職希望者」とし、分子を「就職者」とします。この算出によれば、上のケースの「就職率」は91.0%（312名÷343名×100）になります。しかし、それでは、「卒業者」から「就職希望者」と「進学者」を除いた61名（434名－343名－30名）の扱いがあいまいになっています。

こうした問題点を改善するために、「旺文社 進学情報 今月の視点（1月）」において、分母を「卒業者」とし、分子を「就職希望者」と「進学者」を合わせたものとして算出する「進路決定率」が紹介されていました。ちなみにこの算出によれば、上のケースの「進路決定率」は85.9%（（343名＋30名）÷434名×100）になります。この指標を使えば、これまでの「就職率」では比較できなかった、大学進学者の多い大学や学部も同一条件で比較することができます。

以下は、「旺文社 進学情報 今月の視点（1月）」を参考に、「進路決定率」から見た近年の卒業後の進路についてまとめたものです。

#### □ 年度別の進路決定率

〔年度別の進路決定率〕

年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
進路決定率	85.7%	87.6%	89.0%	90.0%	90.4%

進路決定率は、2015年から4年連続で上がり、2015年と2019年を比べると4.7ポイント上昇しています。

上昇の主な原因は、就職状況の改善です。卒業者総数に占める進学者の割合は、2015年→2016年→2017年→2018年→2019年で、11.1%→10.9%→11.1%→11.0%→10.6%と概ね減少傾向にありますが、一方、就職者の割合は、73.0%→75.1%→76.3%→77.2%→78.1%と上昇しています。

文系と理系を分けた場合、文系については、2015年は83.3%から2019年の88.8%へと5.5ポイント上昇しています。一方、理系については、2015年の90.4%から2019年の93.3%へと2.9ポイント上昇しています。文系が卒業者総数に占める就職者の割合を大きく上げたことにより、全体の進路決定率を引き上げています。

#### □ 男女別の進路決定率

〔男女別の進路決定率〕

年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
男子	85.2%	86.9%	88.4%	89.5%	89.9%
女子	86.4%	88.5%	89.8%	90.6%	90.9%

男女ともに、進路決定率は4年連続で上がっています。卒業者数に占める進学者の割合については、4年間で大きな変化はありません。一方、就職者の割合は上昇しており、2015年から2019年で、男子は4.9ポイント、女子は4.6ポイントの上昇となっています。

また、進路決定率は男子よりも女子のほうが高くなっています。どの年も、卒業者数に占める進学者の割合で男子のほうが

が約9ポイント上回っていますが、就職者の割合では女子のほうが約11ポイント高くなっています。

しかし、就職者のなかには非正規雇用者(雇用契約が1年以上、フルタイムの非正規雇用者)も含まれており、その割合は女子のほうが高くなっています。

□ 学部系統別の進路決定率

[2019年 学部系統別の進路決定率]

順位	学部系統	進路決定率	順位	学部系統	進路決定率
1	工学部	94.2%	10	体育・健康科学部	88.9%
2	理学部	93.6%	11	法学部	88.6%
3	農・獣医畜産・水産学部	93.3%	12	文学部	88.3%
4	看護・医療・栄養学部	93.2%	13	国際関係学部	88.3%
5	医学部	92.8%	14	人文・教養・人間科学部	87.7%
6	家政・生活科学部	91.4%	15	外国語学部	87.7%
7	教育・教員養成系学部	89.9%	16	薬学部	86.3%
8	経済・経営・商学部	89.9%	17	芸術学部	85.7%
9	社会・社会福祉学部	89.3%	18	歯学部	78.9%

歯学部・薬学部を除く理系の学部系統で、進路決定率が高いことがわかります。

この中で、看護・医療・栄養学部系統は、資格取得率が高いため進路決定率が高くなっています。また、理学部、工学部、農・獣医学部・水産学部で進路決定率が高いのは、卒業生数に占める就職者の割合は70%を下回り、他の学部系統よりも低くなっていますが、進学者の割合が圧倒的に高いためです。

文系については、進路決定率においては、実学系の社会科学系と人文科学系の学部系統間に大きな差はありません。しかし、進学と就職に分けてみると、両者はやや異なります。

□ 国公私大別の進路決定率

[国公私大別の進路決定率の変化]

年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
国立大学	90.8%	91.8%	92.2%	92.8%	93.0%
公立大学	90.5%	92.6%	92.8%	93.4%	93.4%
私立大学	84.2%	86.3%	88.0%	89.1%	89.6%

私立大に比べると、国立大・公立大の進路決定率が高くなっています。

国立大に関しては、理・工・農・獣医畜産・水産学部系統が卒業生の半数近くを占めており、これらの系統の大学院進学者の割合が高いことが国立大学全体の進路決定率を押し上げています。

公立大については看護・医療・栄養学部系統の人数が多い。これらの学部は資格と職業が直結しており、国家試験の合格率が高いことから、公立大全体の進路決定率を上昇させる一因となっています。

一方、私立大は大学数も多く、学部もさまざまあり、個々の大学の進路決定率を見ると、60%から90%台の幅広い分布となります。また、大学院進学者が少ないことが、進路決定率が国公立大に比べ低い要因となっています。

□ 大学規模別の進路決定率

[大学規模別の進路決定率]

規模	1,000名未満	1,000名～3,999名	4,000名～7,999名	8,000名以上
割合	85.2%	86.9%	88.4%	89.5%

例年、もっとも進路決定率が高いのは収容定員数1,000名未満規模の大学でした。これは看護学部などの資格直結型の単科大学などが多く含まれていたことが影響しています。2019年に関しては、4,000名～7,999名規模の大学がもっとも高い結果となりました。しかし、次点との差はわずかで、大学規模別では、進路決定率に大きな差がないことがわかります。そして、実際に各大学の学部別の「進路決定率」を高い順で並べてみると、大都市にある大規模大学であっても、いくつかの学部が下位に散見されます。

**終わりに**

先日、本校競技かるた部は、広島エフエム「大窪シゲキの9ジラジ」(月～木 20:00～22:00)の取材を受けました。当日は、番組ディレクターのTさんと火曜日アシスタントDJの「ひかりん」こと小竹 彩花さんが来校されましたが、お二人の機知に富む会話で部員たちと楽しい時間を過ごすことができました。教員をやっている「いいな」と思うのは、生徒たちが笑っている場面に出会うことです。Tさん、そして小竹さん、ありがとうございました。

(文責:進路指導部 池本 邦彦)